

NOTÍCIAS DO BRASIL

Diretor Responsável SANEMI HARADA

Diretor Adminis. e Proprietário SEISAKU KUROISHI

Fundado em 1917

Redação, Administração e Oficina: Rua Heliópolis, 127 - Caixa Postal, 3148 - São Paulo

N.º 3.066

ANO XXXIII

SÃO PAULO, Sexta-Feira 24 DE NOVEMBRO DE 1950

Circula às Segundas, Quartas e Sextas



文藝欄

詩

想 出

大内 清子

川邊にたてば

静かに流れる水

胸に深く

かすみの想出よ

静かにしづかに

流れる水と共に

流れてゆくおぼへて

去りし友

遠い町へさようならと

去った幼な友達は

別れぎわに涙を流して

来る春はきつとまた

訪ねますといつたのに

イペーの花も 咲きはじめる

木々の新芽も 出たけれど

待ち侘びた友は来なかつた

百合の花も散り

夕陽の光も 夏は来たが

友はやつぱり 来なかつた

病院の

窓の邊に紅く咲いた

バラの花は

朝吹風にニコリとせす

歌つて

あとと重苦しい吐息

あとと生きたることを

病人は顔を上げて

バラの花を見たが

つれたやうに目を

つぶつてしまつた

病人のやうに

やがて散るであらう

案山子の歌へる

日本 莊主人

時 代 相

サントスにて

K・Y 生

我が青春は、黒地に

人生のあらしの間に

過ぎたり

燃えくも光しく雨

荒れにぞ荒れし

案山子の歌へる

日本 莊主人

明治天皇の御製かしこみよこひの

涙ながしつゝ仰き見てたつ

あさみどりの御製の石文建らし日よ

淨の雨の降りて晴れたり

十一月の雲の動きはあさみどり

澄み渡りたる碑のうへ

高原に雲霧集り静かななり

碑の暮落つる時の間あかりて

高原の冬あたゝかく浴衣きて

案山子庵には時計を置かず

案山子庵は破れ障子の貼り替えを

ことしの冬はおこたりなき

案山子庵に動行もせず静寂せり

佛の教はいとありがたき

心は静かにあつて、生くる

有難く我に働く仕事ありて

子等もいそいそと育ちゆく

母と子のつみくづくるこ

の生活

貧乏ながらたのしからず

母と子は手を握り合ひかば

いつか、苦しい人の世の旅をゆく

孤 獨

モリス 近郊

モリス 近郊

モリス 近郊

モリス 近郊

モリス 近郊

モリス 近郊

モリス 近郊

モリス 近郊

雨

ジャポチカバール

沖野 幸恵

傘さして道行く人とおぼろ

なり

うなだれてむせぶが如し

芭蕉の花

小雨の中にあわれはかなく

たそがれの空にわびしく

鐘の音響き今日も暮れ行く

母の歌へる

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

ガルサ

みなさんの作品集

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

てんぱく

朝の道

金 城 安子

私のうちは道は朝はとも

にぎやかです。朝はとも

とボン屋の自動車が、

とらばなをならしな

つちこちの家にボン

が待っている人達

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

はあ、また来てと

おぼん

マリア

ことしのおぼんは毎年の

うに雨ふりませんで

はくは七重きになる

とのはなをながさ

とせんこうをあげ

まいつてから、あ

らのはなをながさ

た。このはなを

ながさ。このは

なをながさ。こ

のなをながさ。

このなをなが

さ。このなを

ながさ。この

なをながさ。

このなをなが

さ。このなを

ながさ。この

なをながさ。

このなをなが

さ。このなを

ながさ。この

なをながさ。

このなをなが

さ。このなを

ながさ。この

なをながさ。

このなをなが

さ。このなを

ながさ。この

なをながさ。

このなをなが

さ。このなを

ながさ。この

なをながさ。

このなをなが

さ。このなを

ながさ。この

なをながさ。

春の日

大 江 徹 明

氣持のよい春の日が来

た。まともな山も今は花

な花がたふさふと咲い

て。雨が降る。どの木

も青々として。小鳥

がうれしうに木の枝

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

から枝へと飛びか

投稿歓迎

創作、随筆、詩、児童文

短歌、論議、余り過剰な

いもの、等々、原稿は一

返却せず、取捨選択は編

部一任、右御承知の上投

稿願います。編輯部

さんばつ

アルジャー国民学校

四年 野村正明

僕のはいつか何時もお

うさながらです。お

うさながらです。お

うさながらです。お

うさながらです。お

うさながらです。お

うさながらです。お

うさながらです。お

うさながらです。お

うさながらです。お

うさながらです。お

うさながらです。お

うさながらです。お

うさながらです。お

うさながらです。お

うさながらです。お

うさながらです。お

うさながらです。お